

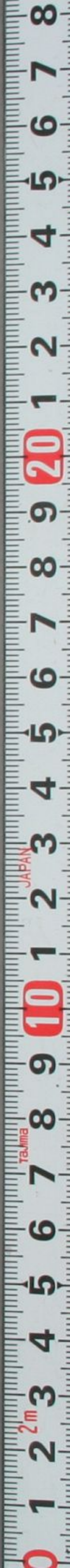
小  
精  
語  
鏡

特別

14

1919

703



詩

14  
1919  
88

703

詩  
集  
卷  
之  
一

小  
精  
語  
鏡



警世錦囊

古事錄

大正十三年春

日手録

小幡庵主人手録



○フルロン曰く人の身は後ハ書牒の損耗ハ皆書籍より  
之を得ること多ク

○人皆長生を望む所ハ人皆其老ありを欲せず西語

○世々之富めるはうし七得たる不幸福不幸なるはあ

か  
し  
せ  
り

無  
事  
無  
事

無  
事  
無  
事

○ピレネー山の一面を正理公道と稱すこと他  
 一面に於ては不正不道なり  
 ○英雄の寝堂に死と獄とあり  
 ○為せば成るゝ云々ゆるゝぬとのるゝを成らぬと  
 云ふは為さぬるにけり  
 ○みる敵の顔は海と紅雲の淡きと深きと  
 なるけり  
 ○あまたあはれあはれ心にあはれ極むるのあはれ

ことのは

○鉄を賣るやうに麻を耗るを可とす  
カニベンシ  
 ○鎖をおろして国を守れと云ふは誰か守る  
者を守るべきを ジェバナリス  
 ○真の英雄なるは自ら其英雄なることを知ら  
ずることのさう カアール  
 ○世の中の人と狗のさうありて一狗と云ふは後  
 こそ忘れ

○捨果して身に入る事と云ふも雪のふる日ハ  
寒くこそ何れ 西行

○見よともを少くことと君と十倍の利あり何んとも  
ん目ハ容易に欺えん事と見よことハ則候仰事  
吾人が累に耳より言者多くハ是れ欺言多し 西行

○山陽女つくと誘つて言余有二字訣曰真又有四字  
訣唯真故新

○淑徳の答ハ唯一無償の寶にして之を得る為るを后

北七市人の妻と競ハざるを得ず レルレル

○人間の力ハ限ありて人間の心ハ限ありてエメルソニ曰  
唯此一の罪を限制する

○大膽の中より才力ありぬ法あり三始のよき事  
必ず成らん ゴエテ

○哲者の目的ハ原因の教を減する事あり例ハ此等  
の目的ハ元素の教を減する事あり如し

○チボレラシクレランを評して曰く獨歩する事あり

進むや迅速なる

○塚木馬や枯木をさかす花の中、此句以つて批評家を評すべし

○ロシグフ井ローの句云く、長空を睥睨して突兀、泡漠の中を徑行する角石塔も近く之を認め、石片の累積に過ぎず、偉人の高きを、蟻も亦一躍と達し、又あるが其儕輩の沈睡し、深夜に於て獨り自ら屹と攀援し、その

○若し人の全生涯を以て教育所とせば、世界由航者の如き、其日歴境も亦、此の感化より、却て其保母の感化を交ふることも多かる、殆どし、ジエシ、ホトシ

○今ハカある神あり、ギヨテ

○人の交るる感動は、目前に見るを以て最も強しとす

○是非を知りて利害を計らざるもの、儒者も、利害を知らず、是非を計らざるもの、吏人も、儒者似、吏時務を

無常の世

無常の世

知らずもい之が為なり

○人の心より死の恐れ打たつ情を弱き情は身  
ペーコン

○エマルソン曰く思ひをへらるゝ者ハ大人ナリ

○伴曰く心の何といふも心ゆふ心の何とすも心ゆふ  
○或は比喩思ひ定むるはかづらん頼むまじき心な  
りけり

○心こそ心まよひす心まよひこそ心正しこころ許すか

○歴山大王が波斯遊征に上るとき其者有る所の  
名を答ふけん之れを群臣に配其者人問ふを曰く王の  
あすする不河物を王答へ曰く只一の希望を有するの  
みと

○美人の笑面ハ財囊の列取目ナリ (伊) 語

○悪の褒美ハ嫉妬ナリ (英) 語

○愚者の心ハ口中に在り智者の口ハ心中に在り (伊) 語

○俗人の喉を削きしは蓋蓋ナリ (伊) 語



○暑う多き良心の好き枕う (仙語)

○若き妻の夫夫を墳墓に送るの驛馬を (獨)

○美人の容貌に嫁産あり (丁)

○名譽の花を墓に咲く (仙)

○恋人の喧嘩の恋を二倍する (菊)

○名譽の偉勳の香氣を多しソラテス

○絶景に金つるへき不吉し

○雪の便白無垢に火のしずん

○復讐の死を去り、悪愛の死を軽んず名譽の死を奉  
け、悲哀の死を奔走、恐懼の死を先づ (ベーコン)

○人ありて、名譽を以て、秘中の最も秘氣を以て  
ハ何んや、名譽を以て、秘中の秘氣を以て

○名譽を以て、名譽を以て、名譽を以て、名譽を以て、  
名譽を以て、名譽を以て、名譽を以て、名譽を以て、

○政治仕掛の大なる決闘を以て (マツカミ)

○若し人あり其口を松を然りと云ひ目に松を否と云ひ、

其口を信ぜようし其目を信ずし エメンソ

○罪の歴史を書き善の歴史 ゴエテ

○名譽の彼の燦然たる泡珠の如し其最下の部

分破らんば全体もろくも カニエール

○諸事を終ふも自ら終ふもの カーラ

○世を誤るる悪人中の善人なる人も世を厭ふを  
善人中の悪人なり

○弱い身と強き心 カーラ

中らうぬもの アデソン

○知らざるの戦の本 カーライン

○ジョセフ、クラツツ曰く、日本は小舟も楫の如し東洋  
の大船を揺るす 此楫るるも可なり

○風をきき空をり蜘蛛巣を誇り事なき世を小  
人巧を弄す

○善の法律を知らぬ

○右手の目と左手の目 左より右を看せんと欲せんば

あること成り給う 韓非子

○忍め七亦難あり勢を忍む忍ふものと忍とあり  
又足らず畏ふべきの執りて忍ふとの之を真と  
すなり 伸瑜

○我れ死すと欲んるに空言なり是にと敗れん ガールランド  
○近き危険に大なる危険より室内に居る野猫は  
遠方の曠野に在る獅子より危険なり サウテン  
○崖に棲む舌を噛めとも尚共に居るなり 誘

○今日ハ昨日の別人なり (英) 誘

○主人の眼ハ其双手よりも多くの働きをなす (獨)

○美服はよき招状なり (蘭)

○狐の一族ハ終に皆毛皮屋の店頭に并會す (伊)

○地下六尺萬人同葬なり (英)

○貧者に貸す者ハ利息を神に受く (獨)

○黄金積る時萬舌然す (伊)

○富家の未亡人ハ一眼を以て泣き一眼を以て笑

か(葡)

○戦術の奇を以て勝を得る人の歴史を今もハカシガハ  
勝を得るにあらざり カール・フォン・

○窮乏の井に陥りしものゝ悪魔の出す子をも  
取らし

○ケトリー常の羅馬人を評して曰く此等ハ羊の如  
し動くも群れを動き止るも群りを止まる

○人間を動かす二個の横杆あり曰く恐怖曰く利

蓋 十ホレラン

○梁肉を喫するの口より甚きハラス 金冠を戴く頭より  
危きハラス七寶冠を戴る 其冠を以てす 此の難きハ  
有

○枕をまく戦き忘るぬ海にうね

○枕をまくと田を以て備へ花の花

○白雪やまのふりつるをきいところ

○睡床高き歩の威あり

○朱門一夏の糧ハ白屋十日の糧

○朽出せば凍の間に七や八はくろま

○服部南野曰く儒者も冬至を祝ひて肉の二月  
と云ふしその内が樂まると又曰く字を常の儒者  
の雪隠をうへりてまゝにあらす可きなりとも時々の  
具々を好くおと

○人を相するもの東帯して朝にむすの時いせは  
遊岳談笑の日も松をす之を矜持を祝ふに五卒

ル花かす、学士文をあし詩を言す矜持を免れず

四字の廣句々節々に任す乃ち其真を見ん言

○ウチルヅウチルス曰く詩の凡そ言の智後の氣也

○コウレン曰く詩ハ永遠無限のものを現はす故に美  
術中の第一のものなり

○ラスキン曰く詩ハ老翁の情を起すへき事物  
を起像の力もよくを言及ばし思ひ及ばし言

○シエーロ曰く詩は世界を回復（る）被衣を取上げ其題  
いんぎ美を顕表するものなり

○アリストットル曰く詩は歴史の及ばざる一層高  
等の真純一層純潔の存在あり

○マレウアーノ曰く詩は神聖生涯の如し詩の必要  
なる所以は其遠き大なる善悪を實社会に應  
用し人類の生存をよきもの大開拓に考及す  
るの事なり

○子子や散らるるまの浮沈

○結核や元身んしえの枝

○一抱へんを柳の柳のうらみ

○若株を咲かす強し燕子危

○初真桑はまや割えん輪もや先

○福妻や時と来今日の西

○遠くを見んは板やちせん雲

○自ら心をこころの善に背くもあはれ悪を離

又浪の上の月の静まり難きな傾けの物も  
○エ。ビキエラスの徒曰く飲食するは荒らる我等の  
曰此す可んやと楊子曰く善物の異るる所ハ  
生る同トキを死る生ハ賢愚貴賤を  
是ん生の異る所を死ハ眞腐消滅を  
是ん死の同しき不る十死を死する四死を死  
仁聖も死し亮秀も死す生んハを舞竟るん

死んハ皆腐骨をう生んハを榮付る死す  
ハ腐骨をう孰んハ又異るを知ん

○女まことな愛着の道其根あか源とほし  
塵の樂欲おほしとらも又を厭離しつへし  
その中なれかの惑ひひとつやめかなきの又ぞ  
走らるも自らを止む留めも思ひあはれはる不  
可しと又あはれんハ女のかみすうとよめる網  
くもたるもよめつとられ女のこころあはれ

つるの笛も秋の藤外をきかぬとて  
（侍も、又つらういすしめとおきまゝつくしむ  
あふきハ此まるとひろま 首好

〇其若き時大内のおもひも又侍の中より  
のちかき雪のうらみけりけるに衛士も仰せも  
の雪拂のちかきけんが傍る松が枝もははる  
か恨めしけんかゆるしとてさけり。おきま  
さき若木を翫眼しける事なほさうにせぬも

の雪を拂かせると松が葉はみてもおのくと枝  
を削ゆるしとたはくさる雪をばはるおと  
みするもさうもさうさう流きし御心地  
や 近松

〇男女のあめおんえさしとてさうの  
きこえぬとさうおとくしめぬと  
其をえおとさるおとくしめぬと  
香のすもも 杉風さうきと糸のせせ女の



はるくと花車は歌うての聲のまじり  
うきなやあぢるな氣のまじり  
と情と世を狂つた物ぞかし

○真顔の柳の匂は向ふ何れこそ  
まこと垢思代ぬかへうさう

○平賀始行曰く人の世交つることは  
ぬくせよ穢をぬき穢をおとす  
出づ時我身とつらむ海邊うら

○春上人云皮おのむはに後  
をえその樂をを見す西行か  
いろのまかたもけいふま  
をぬきこまよふまはし  
まの心神を二分はさし  
まの心はぐくむ一視は  
あはれけいの音るあけ  
まはちのまきりくとうら

糶林瓶

くらまう 飯櫃味噌桶酒の酒（さか）あまし  
○人の江にわくをおくる宗因の句（さか）云分らる、  
ものさう 中眼花の江に

○飯櫃の名主香の狂歌（さか）云見初し時を  
かぬけんじ 江をえさういまうま（さか）わさ  
○又別香（さか）云くまをさうい別れの道のた七（さか）や  
首を自由（さか）さうく（さか）も

○雪丸のわみの狂歌（さか）云廿の江をひろい手（さか）

三保の浦松の衣（さか）の衣（さか）と

○十萬中末山の初雪を待（さか）うゆその狂歌（さか）云  
花とよむ雪まつばあはまの（さか）

○馬（さか）と白きさう白くして而して後馬（さか）あ  
さ（さか）也（さか）公孫龍

○松をえさる人もあけり花の中（さか）

○岩根山花（さか）撫（さか）も人乗るも人（さか） 菖菫

○うれ（さか）きことい忘れや（さか）い（さか）の（さか）とけ（さか）ら

かたきばるるし、かきききの大やうに  
かたし、心結ばぬを凝かたききき  
あうのよやあつうううううううう  
はまきく、かききききききききき  
うううううううううううううう  
七見すううううううううううう  
十のううううううううううう

中井秋元  
といすめう

○昔のやしく今比ときあり、いまをこそまん、あ

うしをのみかきう出て、人をうやまへば人必とす  
比とみえ、いさをしをばあ、今ういやく、あ  
比とせ、あふ、いまをかきう、あ、昔のう、いま、こ  
回さん、人かきう、笑ひ、こんをう、あ、あ、あ  
のんまをば、へへへ、を、んへ、あ、人ます

上四

○婦人主権を握ん、悪魔、操ぬ、伊彦

○「荒」と「けん」と無く、吾人、永久富裕るる

心ききょう 佛語

○金を借りて行くことと金を取って行くこと 昔蘭語

○何時にも出来ることと出来ぬ出来ぬ事

○墨の鐵鬼にすらすらと筆を鬼にとらせよ

○美人の眼とまとい留つて最良の肥料 昔蘭語

○浪費者の子供の物を盗み吞み家も貧乏を

温山 英語

○婦人のお前の容貌観しと数へて鏡に決しん

あざ 佛語

○不融と云ふ字が字典に たおしん

○若柑の下り 後世畏るべし と云ふ 後語 税

○ハックスレー曰く理学者は決しん 照 と云ふよある

が一七約條の如きものあるなり 其佳す所ハ軽く握り

荒し 其説大なりやうし 事實に及するものあるとき

快く之を擲つて以て 其務とせざる ことあるなり

今後余が勤くせざるを得ざる理由を見出すとき

予は往々の前より聊かも根拠を頼むる余  
の愛説を公示するを憚らざるべし

○割き家より醫者未だ

○水戸義公曰く仁は過きて弱に陥り義は過きて過  
に陥り智は過きて虚偽に陥り

○輿人人の権貴を欲す棺商人の死を欲す

○大地無寸土

○教へざる兒童は悪魔の教へたる西語

○或人ソクラテスに向て或る人其知徳を稱す氏容を  
正して曰く足下の称賢は余敢て當らざる自ら欲せざる  
賦性陋劣百事人の下なる有り唯吾れ一事を知ること  
恐らく一長をん客之を問ふ曰く吾愚を知ると  
○近世戦争の勝敗は数量と速力との相乗によ  
りトするを得べし

○英人の自由を愛するは其心妻を愛するが如く佛人の自  
由を愛するは其情婦を愛するが如く獨り人の自由を

愛するは其祖母を愛するが如しハイ子!

○飛んと欲するものハ翼伏し奮んと欲する者ハ  
足踏し拒まんと欲するものと口黙す情他任

○一主人金を買ひ来り貧人の諭して曰く汝ハ貧困より生  
活に窮すと我今金を換えんと欲す汝ハ汝の身を百  
金を以つて購はん汝ハ百金を得て且つ生活難苦痛  
の生活を脱するを得ん是れ一奉ある金の策なり  
と貧人姑く考へ曰く願くハ五十金を得て半死半

生の人と云ん

○蠹蝨くハ銹くさる盗うがちて竊取所の地に賊を  
貯ふこと勿れ天と蓄ふことを得るの財則ち真  
の富なり聖経

○川を望むる人類の往來するは道路ハ是れと稱し  
はる理ある者ハスカルるは時人驚異と卓見と云  
ふはんと云ふ此ハ是れ十七世紀の昔の事今も人類  
の道ハ空日飛行機陸ハ鐵道あり

○空鑿を運搬する者ハ車輪ニ以テ  
○信實と油とハ常に表面ニ顯ル  
○治平の兵卒ハ夏日の火煙ニ類ス(英) 誘  
○往者楚四ノ方ヲ遺セシムル者ありけり此ノ事  
之ヲ尋ねテ或ル所ヲ測ルニ同四内ノ事あり  
國人之レヲ拾フニ何モか惜まんと言へり孔子之レ  
を傳へて死シ楚ノ字ヲ去ルニ金ニ可なりト  
先子も之レを言へると云ふ字ヲ去ルニ益々可なり

んと言へり

○一字つゝ是句かこむや教の如き  
○或人陸象山曰く何れを著すといふ象山曰く六經  
著我我著六經  
○地を畫して牢獄とする者人へ入るるを強し木  
を刻して獄吏とする者對せざるを期す  
○威権ある人ニ對し臆する心の生ずる時其人が  
闇之房に婦女子我々目ニ想到せよ臆心忍

ちまへん

○鄭の繁仲か世母に父と夫と孰れか親しきと  
問ふ母答て曰く人盡夫也父一而已胡可比也

○山を相すもも敢て一森一窟魑魅伏する所毒蛇  
眠る所入るを要も一邱一阿其起伏を盡し其  
凹凸を極ちるを要も一唯全体に柱を其脈絡方  
位を詳すもんは近う川を相すもも敢て一汀沙  
白鷺を驚かしん其墨を淺方の間に低細す可も

只高より一自ら長江何くも驚し何くも屈曲し  
何くも注ぐを見るへし

○世の拳を以て刺鞭を撃たれば最も痛む  
のき曲の手するん ブローヤル

○引寄せを統へば首の座より解は元の  
原よりけり

○世の中を流りくるといふをわらわ河波の字に  
吹風もや



○王陽明山中静坐坐克とすとの語つて曰く世若し外物を厭ふの心を以て之を静を求めば及つて一個驕惰の氣を養成せん世若し外物を厭はずんば静處の涵養に於て却て好しと

○何人佛の運慶の口傳とを語りしハ佛を祀るハ耳鼻を先大せくすし、カ一耳鼻を十分よき禮入劉リウハ後又小せく又ゆる時ハ、大きれ志とて右かまはず、口目を先小せくすし、若し口目を

十分よき施すあくんハ後又もし大せく又ゆる時ハ、ボクと志とてカまはず、大きれ志とて大せくすし、口目を先小せくすし、佛一の口傳とす  
○此を、坐ハ七と釋迦子に出せたることより、此の木佛人を心する心得と何ぞもあふし、駿を龍泉  
○門移り冥途の旅の一里塚を築くつて、無上の春の御世と壽き、懸棘ケキ鬚ヒゲ魚イサの瓦盤と悟らば心あつて日出るを見え、此

靴をかへて志のよまぬ、  
白の雪と舞入る世の  
空もごゆるといふ油  
ゆきも、  
その可  
の歌の、  
都室のいふき  
魚のさきか  
らつす世をめで  
たけり 根無子

○世程言常多

○驥ハ喝すんば即ち走る  
其次ハ鞭影を  
見れば走  
走ハ驚ハ即ち鞭撻  
と痛骨に徹  
てすんば走  
る

○廬山の真面目ハ  
唯山おのふ  
あるも其全  
面  
を見るを得し

○皇妃ハ一私婦に  
比すんば  
及て其子を  
亡ぶ雲  
ま  
佐多し侍醫の  
注意深き  
ことあり

○射術ハ  
射を得る  
其目標  
として  
林檎を射  
ハ  
容易なる  
一之れを  
其愛児の  
頭上に  
射せし  
め必  
く射  
らん

○葛枯て我宿  
駒の隣  
うさ 男貴

○張三李四野々々孔子を議するも、議せしむ、  
この思ふは是れ孔子にあらずとも張三李四の  
肚裏の一塊物後りし孔子と呼はるゝものぞん  
のみ

○人々自有定盤針、萬花根源總在心 王陽明

○黃山谷蕪菁の画に題して曰く不可使天下之民有  
此色、不可使士大夫不知此味

○鈴木に斧鉞の難あり美禽に砲丸の忌あり

○最も通常の道理を悟りし時より最も高き大  
きき思想を有する人より最も通常の道理を踐  
行する者は最も高き君子より世の後進の君子  
へべきの彼とあらずして此に在り

○呂新吾曰く人之念頭其氣血、同為消長、四十以前  
是個進心、識見未定、而敢於有為、四十以後、是個  
定心、識見既定、而事有酌量、六十以後、是個退心、是  
識虽真、精力不振、



葉に春の幼きを醜や知らず来る都世門士女の指  
頭に解りて全輪をえい意光の達をさう樹里の坑  
穴より出づ此の坑穴を照らす此の醜や知らず  
くしもの字に批評家と云ふ

○成路物北枕に題する詩に曰花蒲月笛又雨  
砧伴再能少或種音

○瀑噴春風山去長

○有字句之詩人籍也無字句之詩天籍也

○天の重任を斯人の降せんとすもやめず先其心志を  
其の其筋肉を弄し其体骨を餓し其身を空  
乏せしめ其所為を拂乱せしむ

○少年より高科に昇る一の不幸なり

○遼東有豕生子白頭將献之道遇群豕皆  
白

○在下人員其能不肯論其上上之人負其位不肯  
顧其人故有杖多戚之之窮盛位無赫之之光

韓退之

- 煮字元來不瘞餓
- 酒常知節狂言少
- 拙之一字免了千罪
- 一目之羅不可以得鳥
- 衆口之毀譽浮石沈木
- 前水復後水古今相續流
- 未明須勝已似我不如無

○ 今既不如昔後當不如今

○ 莫言世事常如此堪笑人生有幾何

○ 一生二二生三

○ 再實之木其根必傷多花之家其後必殃

○ 善言古者合之於今能術遠者考之於近

○ 高山之巔無美木傷於多陽也  
大樹之下無美草傷於多陰也

○ 惡言多依多了無自覺日結婚以法律之依

許さん等凌辱、神への誓約に依る責滞する  
○ニケエ曰く情慾の遂行をも恋愛を連成的に  
発達せざるに従つてその種の恋愛は其根が弱く  
容易に引抜かる

○エシケエ曰く世は日恋愛は單に人間が新しい人間  
を生み出す衝動の謂はるゝ、こゝに依る人間が更  
に一層密接に結合し、その子供等を以て彼等父母  
から、恋愛の大きな力をもつてこの人間関係に於て

人間の全体に反應するその恋愛力を遺傳せし  
め、やうに、高きものとしてとゞまるとそのことを  
意味する

○恋せずは人に心もなからず、物の哀れへこのよ  
りを知らず

○男は自分の腕を百人の女も終んが握る癖に、女  
は自分一人の腕にわらう儘うせよとよきと誤ま  
るは、洗滌屋をせよとよきとよき、高きとよき

石罅の役目を勤めしある狹らきなり。

○女のなき世ならば、成衣衣も冠もいづもあふ引  
つゝあ人も侍らざりかく人に恥を女いかばかりい  
みどりき物ぞと思ふに、女の性ハ情いかり、人の我の  
相あかく、貪欲えするはどしく物の理をしるす、た  
まふいのかはれ、こもはやくうらう、ことばもはやく  
うからぬことをも、さし時はいはれ、用事あること  
みんか、又あさましくきことまはれ、とはすがうらみいひ出

まあかぐればかりかやれることは、男の心通のまはれ  
りたるかと思へば、その事あともう女もいふるを  
かすするは、さしづし、つたるき物をもめま、其の  
随いてよき思ひん、こころいふべし、直也

○傳佛若可憐罪、則刑官無權、尋仙可以延年、  
則上帝無主、

○青山元不動、白雲自去來、

○名馬常臥痴漢走、好妻多伴拙夫眠、  
唐伯虎



○信玄の旗號曰く、不動如山、侵掠如火、其節如林、其疾如風。

○人鑑を著ふものあり隣の子を著ふ其行末を視る獄を竊むものあり、顔をも獄を竊むものあり、作動態度者すくすくを獄を竊むものあり、俄くを獄を家陽に得たり、他日復隣人のふを見、動心態を反獄を竊むものあり。

○歐陽公曰く、先生の嘆を畏れず却つて後生

の笑を怕る

○陳白沙曰く、古人棄糟粕、非真傳、吾能握其槩、何用窺陳編。

○王霞仲酒後左の句を誦し如急を以つて唾唾壺を撃つ、壺口盡く、淵く回こ云く危驥伏櫪、志在千里、烈士暮年、壯心不已。

○千返金二九の辭世云、此世を心とりやおいとまやせん、香と共につひつと灰さやうらうら。

○西野の句云大海の定めなき世の定めなき  
○渴不盗飲泉、熱不息惡木陰、惡木豈無枝、  
志士多苦心

○老練の幫間曰く人荒し我も困る、如何せん可  
らやと云ふを以て是は、直らざるを以て、畢  
しヨウしと云ひて、打撃する体を為すべし、而  
て其人、斯くの如くせば可るんや」と問ふ、及  
ん心初め力を入んを賛成し、聖の亦、最妙こ

と云ふ之れを激勵すべし、必らず其人の信を博  
せんと

○雅客の鹿の角を交て秋の哀を感じ、獵夫の因じ  
射すを交て、鹿丸を取出す、鐘を轉念の鐘の聲  
七幼羅双掛の花の名も見聴くこの心こそよ  
○泊樂天の詩云、周公恐懼流言日、王莽謙  
恭下士時、若使當年身使死、至今真偽有誰  
知

○靈種産無種彩雲去無根

○希眸の大賢プラトールソクラテスと時を同  
あし生んずを上天ニ謝す

○聖任ニ曰「汝等ハ世の交るる 汝等ハ世の極るる  
希クハ瀛里を照らし世の腐敗を止めんと  
○水之流也自主也、樹之立也、自主也、圓の存也、自  
存也、豈有待于外哉、無待于外、豈有制于外哉、  
無制于外、故能制外、  
吉田松陰

○川柳子曰くさめし七厘根尾を釘の孫吳空  
○細井廣洋の元まじに脇差の小刀ハ七月の末  
八月の初まじく研かすといひまじけんハ廿五の  
人何あまさいえまじしやと問けんハ栗柿の海  
山あす時分といえんし

○酒徳の頑ま云、もうえくりんや本太白酒を飲ま  
ぬハびいの人、更科城路の月雪ハ酒かすけん  
ハ只のと出 勝る

○月花を詠す今秋ニ云雲のころは月の光  
風の散す花の光と云と凡とのあるこそ  
月と花とを尊とけん 能洋著心

○三井芳隆の今秋ニ云花ももゆるみよりの  
そよの河げばのえそい勢もろこし一人に  
ひとちやまをこころなるうぬへし 新山陽

○恐るべきは席の皮の禪あるが、緋縮緬の  
あんどしう

○川柳子曰く股倉を妻とくえやるひぢりめん

○物海渡國人の船が子向を五才あ出す人  
こまんと云ふを聴き自分ハセーし 若菜同もる  
けんぢみ やんれん太夫 女の腰巻と換わることを得バ  
青本 おん と云ふ

○伝坂村人の 海 思ふあまねを おん 妻とす  
るまき おん 餓りの貧乏 おん いびき おん 本妻と  
まつてあげま おん

○歌麿の雪曼園に少女のまろ銀世界を賞  
すの倍あり、初出の少女の言ふを添へて曰く  
あま青龍一とこ茶津を葉枝やら  
○蜀山の六歌仙の謠ニ云く四歌仙が皆山使に  
（此山所業平何かこぞ）  
○雖觀天地之鯤、龍門之鯉、鬣翻雲而鱗橫  
海者、猶不足以易吾之真樂也  
○千金の玉色ありと雖も没底の玉も感ず可

こころハ則水既んを將面を注かんや

○星斗満空、不如一月、衆角満野、不如一麟

○或る人洋行に臨み留別の謠ニ云く吾人の餘り

日本を見懐んぞと神外西に在りて本國を後ろよ  
り觀人と

○汲水疑山動、揚帆覺岫行 鹿野松

○江海三年客、乾坤百戰場 李商隱

○人生若波瀾、世路有屈曲 李白

○泉聲到池盡，山色入樓多。張祜

○天近星辰大，山深世界清。姚合

○鳥啼殘照出，鐘斷細泉來。張翥

○蕭艾水聲落，四時松色寒。竇參

○聞鐘投遠寺，待月過清溪。李端

○山房鳴過雨，澗樹落殘花。韋處士

○水田秋雁落，山寺夜鐘沈。劉長卿

○村深烟不散，溪靜鷺忘飛。錢起

○寧知市朝裏，但覺林泉清。李華

○靈院野僧在，茅齋秋興存。高適

○江靜漁歌歇，山深樵語少。孟浩然

○農務始之急，春柳岸已深。杜甫

○人病先知雨，常貧早覺秋。許渾

○夜坐山當戶，秋吟葉滿衣。楊巨源

○多病懷酒伴，餘多此詩人。韓愈

○志適不期貴，道存豈偷生。柳宗元

○欲就林中醉，先期石上眠。盧仝

○飲酒任真性，揮筆肆狂言。韋應物

○功名萬里外，心事一杯中。馬適

○興來書自聖，醉後語尤顛。同上

○片言責雙璧，一諾輕千金。李白

○詩因數次發，酒為勸教揮。同上

○巨海能無釣，浮雲亦有梯。杜甫

○百金孰云重，一諾良匪輕。盧昭陽

○海内存知己，天涯如若比鄰。王勃

○何多最恨花無後，愁破方知酒有權。鄭谷

○新送一生唯有酒，尋思百計不如閒。韓愈

○不堪身外悲前事，強向杯中覓舊春。木下並

○眼前好惡那能定，人心回互自無窮。張籍

○酒債尋常行處有，人生七十古來稀。杜甫

○去日兒童皆長大，昔年親友半凋零。竇叔

○酒醪若將花共艷，鬢毛今共草爭新。盧仝

○竹間泉落山厨粉，塔下僧歸野殿空。温庭筠

○山鐘夜度空江水，汀月寒生古石楼。贾岛

○野寺山边斜转径，僧家竹裏半荆门。李嘉祐

○傾倚倒意無所惜，回山轉海不心難。李白

○春酒杯濃琥珀落，冰漿梳洗瑪瑙寒。杜甫

○長歌達者杯中物，大笑前人身後名。高适

○興酣落笔摇五岳，詩成笑傲凌滄海。李白

○詞源倒流三峡水，筆陣獨掃千人軍。杜甫

○城帶夕陽聞鼓角，寺臨秋水見樓臺。許渾

○芙蓉小苑起宸章，松桂月高僧院凉。同上

○無恙看木蒲，不若長江深。未。杜甫

○雲石焚香，可憐曉。瓜瓞。亂秋。同上

○輕舟在在無不盡，三湖五湖。奈何長。賈島

○及病憲窮身外子，久貧請老客中。德。華。

○對酒已成千里笑，此山空在萬年心。盧倫

○交乘渴的沽尊酒，感興頻吟夫子詩。高适



○半夜秋風江色動，滿山寒葉<sup>而</sup>落未<sub>劉洽</sub>  
 ○花徑不曾緣客掃，蓬門今始為君開<sub>杜甫</sub>  
 ○水流<sub>三</sub>舍下，雲去<sub>到</sub>人間<sub>劉長卿</sub>  
 ○村點千家小，天圍萬嶺低<sub>吳參</sub>  
 ○心多<sub>數</sub>蒼白髮，生<sub>涯</sub>一片<sub>青山</sub><sub>顧況</sub>  
 ○白雲<sub>子</sub>里<sub>第</sub>已，明月<sub>前</sub>愁<sub>後</sub>愁<sub>劉禹錫</sub>  
 ○夏<sub>雲</sub>亭<sub>嶂</sub>遠，瀑<sub>水</sub>引<sub>溪</sub>長<sub>吳華</sub>  
 ○山<sub>遠</sub>疑<sub>無</sub>樹，潮<sub>平</sub>似<sub>不</sub>流<sub>韋承慶</sub>

○花<sub>新</sub>重<sub>之</sub>樹，雲<sub>輕</sub>安<sub>之</sub>山<sub>杜甫</sub>  
 ○山<sub>中</sub>一<sub>夜</sub>雨，樹<sub>杪</sub>石<sub>重</sub>多<sub>王維</sub>  
 ○山<sub>寒</sub>當<sub>空</sub>出，雲<sub>從</sub>滿<sub>地</sub>來<sub>佛光義</sub>  
 ○池<sub>子</sub>照<sub>鏡</sub>鏡，木<sub>吐</sub>破<sub>顏</sub>花<sub>李白</sub>  
 ○座<sub>中</sub>千<sub>里</sub>遠，<sub>巖</sub>下<sub>四</sub>山<sub>低</sub>皎<sub>然</sub>  
 ○事<sub>去</sub>千<sub>年</sub>猶<sub>恨</sub>速，愁<sub>來</sub>一<sub>日</sub>即<sub>為</sub>長<sub>李白</sub>  
 ○坐<sub>中</sub>香<sub>氣</sub>排<sub>花</sub>去，扇<sub>後</sub>歌<sub>聲</sub>送<sub>酒</sub>來<sub>許稷</sub>  
 ○古<sub>驛</sub>荒<sub>橋</sub>平<sub>路</sub>盡，山<sub>前</sub>端<sub>怪</sub>石<sub>小</sub>巖<sub>行</sub><sub>張翥</sub>

○南方嘉種。惟草之珍。孕精育秀。懷英抱真。若羞避厥甜。趨讓其醇。春而之夕。秋霜之晨。連若千里。窮巷一身。鎖燧按管。祛愁養神。金門公子。玉樓佳人。繡包徐啓。元芳絳唇。家藏賞戶。愛美雅具陳。無貴無賤。形影相親。蘭佩薰縷。奚啻靈垠。丹心雖灰。凡流長新。川口元亮

○藥靈丸不大。棋妙子無多。

○書銜筆慢字難小。舌蹠膝忙時有聲。

○殘月有空人影淡。凝霜滿地履聲高。  
○帆映暮山留遠影。橈搖春浪曳金痕。  
○游魚滿筍今朝雨。墜栗堆庭昨夜風。  
○路向澄波窺影久。蟬當美蔭曳聲長。  
○梅從漁笛聲還落。草向牧牛眠處生。  
○塔影抽烟楊柳寺。鳥聲濕雨杏花村。  
○笙歌風無力。蓑濕雨無聲。  
○雁廩為蛆。蛆尚北飛。

○夕陽低欲盡，樹影大於山。唐詩淡定

○猶子始生子，三日未開目。推躡絕崖下，雄傑試

氣尚，雖恐未能死。君子蓋有錄，世上多牛人。抵老

猶紙犢。五山柳

○余年二十以後，乃知匹夫有繫一國，三十以後，乃知有

繫天下，四十以後，乃知有繫五世界。自贊

○書畫琴棋詩酒花，當年件件不離他。如今七事都

更喪，柴米油盐醬醋茶。袁子才

○撥餘煙火耿將無，早有晨聲響唾壺。一掃草香

含馥郁，教固雲影吐模糊。長欽鳥啄君休惡，真

節寔忘我亦俱。于月于花相伴去，笑他秋扇心籠須

史秋重復

○飲牛山下溪，騎牛山上路。但知騎牛樂，不見牧牛

苦。一笛清風吹，有聲無曲譜。日暮歸去來，南山北

山雨。牧兒真山民

○竹擔挑多兩肩赤，礪斧時尋澗邊石。先夫氣力

秋漸衰。易所喜有枯林枝。白雲無人晴空谷。遠聲  
丁如啄木。暮歸待伴不獨行。前途席多荆棘生長  
年不曾到城府。聞江中路尤阻。古古軒  
伐木詞  
○網世奉之笛我吹。魚之不得我何知。留世吹之網我  
舉。節之緩急唯任世。江南無限夕陽山。笑看變鶴  
帶雲還。劉橋門  
有道人圖  
○三四五里路。六七八家村。西有秋水澗。東有夕陽山。  
來自黃葉裏。身自白雲間。去自白雲裡。路出黃葉

前捕魚誰家子。黃葉紛滿船。負薪何處受。白  
雲隨在肩。相見忽相失。古林生夕煙。春清秋晚  
出物  
○花不來。我去吾門候。或回。東台山色青。崖山鬼花  
欲來。昨風今雨苦相催。赤城霞色半天開。花盡  
來。我掃我門無點埃。花合來。吾媽依。飯換青  
苔。花未來。飛。餘世為之媒。花已來。交。之。鴛  
池。空相陪。鴛兒來。林之隈。蝶兒來。牆之隈。花  
手。一笑媽然來。春清待  
花詞

○石羅漢木居士、頭臂支解蓬蒿裡、襪履百結披蒜  
薤、風雨洒剝生菌耳、嘗居錦屋珠殿中、碧石薨華  
柱、青焚美姬、帝翁泣捧香華、王拜后跪供簪珥、  
昔何富貴今何貧、一朝時去如覆水、天寒日暮古原  
間、人踏人蹴顛又起、祭而為佛非再切、碎而為土復  
君始、木石由來無精靈、為佛為土偶然已、何況福  
來與禍降、有天有命誰做再、尊崇過分不知  
辭、零落在今固其理、佛今莫歎悲、素餐

從來皆如此 把在 古佛

○言言成彌席之風、豪莽破湧山之浪

○必嘗揮金茂粟、然後人許其豪、必嘗赴敵

突圍、然後人許其勇

○善為士不武、善戰者不怒 天子

○嵩根秋水淨冷、繞到北中心自醒

○立身須作真男子、臨事無為賤丈夫

○英雄何必讀書史、直據血性為文章

○憑君莫詔封侯事，一將功成萬骨枯

○凡樹不結善果者，則見斫而投於火

○少聞差省事，多矣豈無情。(耳龍吟)

○哭有餘哀何日盡，死無遺憾恨古來難

○亂雲埋樹黑，驟雨壓峰低

○潮到疑吞岸，雲飛欲動山

○老去不須人勸飲，興來還與鬼談禪。沈大成

○峯回路欲斷，江抱屋如浮。口上任琬

○知己一輪月，鄰古四面山。徐紹勳

○食食仍養鶴，山好又移家。陸養生

○水翻雲欲活，舟緩月同行。屈為章

○雲從風脚黑，天倚浪頭青

○氣吞湖海豪猶昔，老閱滄桑骨欲仙

○江流搖岸動，山勢壓帆來

○刻削之道，鼻莫如大，目莫如小，鼻大可小，小不可大也，目小可大，大不可小也，凡事亦然。

○嚴家無悍富，慈母有敗子。

○人知崇莫文田，莫知崇莫其心。呂子

○人皆知有用之用，而莫知無用之用。

○半依天香滿幅溫，捧心餘態尚堪捫。丹青不是

無完業，寫到纖腰已斷腸。李三首題 西苑半身像 千般體態百

般嬌，不盡全身畫半身。可怪畫工無識見，動人何處

不曾描。解大神題 半身美人背倚玉闌干，情懷花容一

難見，幾度喚他，不轉。痴心欲掉画因看。陳楚

南題皆面  
美人因

○過柳風無力，澆花而有香。

○翠屏娥紅粉嬋妍劍，殺盡世間人不知。

○學如富貴在博奴，仰取俯拾無遺棄。

○竹因葉寂聲，招雨。蘭為香多性愛風。

○一帶綠楊春水岸，數家黃葉夕陽村。

○雪壓茅庵小，雲埋松火寒。

○纖月涼痕眉在水，佳人醉暈臉生霞。

○浮世暫寄夢中夢，世事如聞風裏風。

○小利大利之殘也，不忠大忠之賊也。居子春秋

○殺人須就咽喉上着刀，吾人為子當從心髓入微處用力。

○言者不知者默，此語吾聞於老君。若道老君是知者，緣何自著五千文。白居易

○遠山猶雨近山晴，春岸一時澗水生。後伴野橋均去晚，泉聲空和叱牛聲。榜亭牧牛絕澗 幾個歸牛

絕澗流，流去牛渴處，逐箇牧童別取橋頭路。叱

叱驅來不自由。丑山

○前村既見暮靄生，羈心與鳥似爭程。殘陽尚在

堤松上，人影斜連馬影行。詩句

○牧童見客拜，山菓懷中落。晝日驅牛歸，前溪風雨惡。知原人 牧豎去何處，夕陽紅滿波。老牛眠不

起，背上落花多。西村瑛

○漢上暮烟合，橫塘月未生。村娘挈瓶去，柳外



汲蛙聲

佛山橫塘

○亂深夏夕，屋松風吹而急，石廊虛無人，高寒不能立。

吳栢村

題畫

○數家籬落，西東，薑蕪花飄而後風，日暮釣魚人已去，長竿擗在石磯中。

洪容江村

○烟罩月華春意深，小樓人靜漏聲沈，依稀花影

朦朧柳，升向西廂，結淡雲。

枕山烟月可交

○錦繡黃，紅繭白，小姑揀繭，大姑煮繭，厚絲長真

可憐，縲車軋，疾於風，小姑大姑頭如蓬，笑他稚

女，總無幹，貪看破繭蛾，雄。

山陽春地婦詞，傲王建體

○三分明月，二分天，綺障無非文字緣，回部烟花傳

艷史，白華香火，證清禪，春生淺草，芊綠外，人

在深川，卷畫一色，也好隨潮，相上下，官橋垂柳，送

輕帆。

春濤墨名

○半陂風雨，半陂晴，漁笛飄秋，野韻清，卷深蓬，船道

村去，笠擔笠，袂有殘聲。

晚泊陸龜蒙

○十分帆飽捷於鞭，姿意騙郎企脚眠。行盡江湖看世態，騎人第一順風船。道瓦北舟行

○烟籠弱縷月朦朧，曳影猶眠夜水中。別後私闈

細腰瘦為誰，辛苦舞春風。淡碧芳柳

○茅屋疎籬修竹間，桃花春水洞天淵。日長嵐氣

蒸成雨，野雉呼醒欲睡山。淡碧橋園

○夜山或尺去欄橫，俯聽蒼烟罩水聲。月黑橋身看

不見，唯從燈影認人行。山陽鴨河寫塔

○龜山宛在渾水中央，傳是毛侯古戰場。画戟彩旌空

一棹，葦花亂發月蒼蒼。淡碧限川兼示 觀音閣上晚

雪暈，忽有鐘聲出翠微。沙際舟人未渡，雙

雙白鷺映江飛。同上

○桃花臉裏注淚，忍到更深枕上流。韓偓

○至今衣領胭脂在，曾被潘仙三痛咬來。日

○春色轉添惆悵事，似君花外為三枝。日

○山排踈樹公然出，水抱孤村自在流。十舍圍一無甲

乙、平田井、有来年、梅外

○云吐嶽蓮天外去潮吞島樹地中來枕山

○鼓笛一村西村春風二月三月江郎山青雨濃旗亭

酒綠花霞溪琴 梅在

○青山皆後古驛野水半涵人家漁老歸時柳絮

耕牛行愛桃花溪琴 右丞 做

○送郎莫唱楊柳枝生憎一簇更千絲柳枝只解

綰離頭柳絮隨郎無盡期一白於花色軟於綿

不是東風不放款郎似春泥像似紫任他吹着也

相連一亂點新粧拂畫眉玉樓春盡倚欄時隨

風乍可沾泥元莫心浮萍忽心移我愛之柳絮詞 三首

○秋水磨明鏡寒潭晚照餘漁翁奉信處紅葉多

於道佛山

○春船沂嵐浹夜深月高林花皆空色清露欲

滴溪琴 枕山

○朝入白雲去暮出白雲歸白雲看不盡只滿山

人衣朝吟去看花，暮吟啼看花，只訪花多處。

不知是誰家。溪碧漫吟二首

○渡水又渡水，看花又看花，春風江上路，不覺到君家。

○花因命薄偏啼雨，柳為情多却愛風。橋本共卷

○曉衫衫猶漬酒痕紅，餘醉未醒殘夢中，吹入拋花吹入柳，最無聊賴是春風。春清江上春興

○一庭地白明於晝，滿樹梅稀鴉月有餘聲。黃友賢

○鴨群呼去水雲空，香滿落花霞氣濃，僧寺荒涼看不見，暮煙生處忍聞鐘。史鑑湖上晚吊

○隔海棠花帶晚晴，紫嵐蒼靄尚分明，風潮斜遠日平燥轉，數片布帆欲側行。石川梅石明石潭晚眺

○偶至巨壑下，拂雲見石雷，詩句何人寄，半入青苔無。江碧

○春風黃鶯晚，日暮宿幽林，金衣不堪冷，落花覆為衾，知不起孤舟夢，向誰問行程，鷓鴣今去不

春夜水接空城，一江千里，白水平日千回流。波  
細於縷，卷得待郎來。若如五月雨，今如八月水，春  
心無分苦。博生游荡子，妍：蔷薇笑。脈：玫瑰香。  
園花無數，風情莫及郎。漢詩古  
五首  
○水濺：草芽，牧牛誰家史。騎牛過前川，牛  
自飽兒自閑。長歌悠，白雲間。朝騎一牛去，暮  
騎一牛還。西脚不踏江，蒼遠寸心不受名利牽。  
弱豈帶春烟，不知何物為初蟬。渴飲潤，

不知何人萬食錢。柴從沙堤金馬，朝天我自  
斜陽困倒牛背眠。真山氏  
牧火歌  
○袁石公曰：長安風雪夜，古廟冷鋪中。乞兒丐僧，  
鞠之如雷吼，而白髭老貴人。擁錦下帷，求合眼，不  
得嗚呼松間明月，檻外青山。未嘗拒人，而人自  
拒者何哉。劍梯

○問卷可藥方，非閑多病。閉門聽野史，祇為偷  
閒。

○歲行盡矣，凡雨淒然，紙窓竹屋，灯火青燄，時于北窗得小趣。

○山鳥每夜五更喧起五次，謂之報更，蓋山間莫年漏聲也。

○心中事、眼中景、意中人。

○馬蹄入樹鳥夢墮，月色滿橋人影來。

○無事嘗看顏色，有酒常邀顏色。

○中郎賞花云：茗賞上也，談賞次也，酒賞下也。

○肥壤植梅花茂而其款不古，沃土種竹枝盛而其質不堅。

○插花若瓶中，令俯仰高下，斜正疎密，皆有意態，得畫家寫生之趣，方佳。

○無欲者其言清，無累者其言老。

○古愈濃而情愈淡者，霜林之紅樹，真愈近而神愈遠者，秋水之白蘋。

○管輅詩飲後言，名為酒膽。

○尋芳者，進深遠之蘭，識韻者，窮深山之竹。

○會心之語，當以不解解之，無執言之言，是在不聽聽耳。

○逸字是山林閑目，用于情趣，則清款多致，用于事務，則放漫無功。

○何更得真情，買笑不如買愁，誰人効死力，使功不如使過。

○芒鞋甫挂，忽想翠微之色，雨足復繞山雲，蘭

棹方停，忽覺新漲之波，一葉仍飄烟水。

○讀史不可無酒，禪禪不可無美人。

○凡醉各有所宜，醉花宜畫，翫衣其走也，醉雪宜題，清其思也，醉得意宜唱，宜其和也，醉將離宜醉擊鉢，壯其神也，醉文人宜滄節奏，畏其侮也，醉後人宜益饒，孟加旗幟，助其烈也，醉接宜易，資其清也，醉水宜秋，泛其爽也，此皆審其宜致其景矣。

○逢人不說人間事，便是人間無事人。

○人生不得行胸懷，雖壽百歲猶大。

○落之者難合，一合便不可分。欣之者易親，乍親忽  
然成怨。故君子之處世也，寧風霜相自挾，無宵旦魚  
鳥親人。

○心清鑑底滿湘月，骨冷禪中太華秋。

○落花慵掃，留觀蒼苔。村釀新蕪，取燒紅  
葉。

○幽徑蒼苔，杜門謝客。綠陰清晝，脫帽觀詩。

○煙蘿掛月，靜聽猿啼。瀑布危虹，閒觀浴

鶴。

○春歸何處，街頭愁殺賣花。客落他鄉，河畔

生憎折柳。

○厨冷分山翠，樓空入水煙。

○閒疏滯葉通隣水，擬典荒居作小山。

○才人之行多放，當以心欽之。正人之行多板，當以



趣通之

○人只把不如我者較量則自知足

○隱逸林中無榮辱道義路上無炎涼

○耳目寬則天地窄爭務短則日月長

○死泉數岳而非雨空翠成我重山又山

○自古及山山之勝多妙于天成每壞于人造

○翠竹碧梧高僧封夾蒼苔紅葉童子煮大茶

○曲徑烟深路接杏花酒舍澄江日落門通楊柳

漁家

○遠山宜秋近山宜春高山宜雲平山宜月

○病中之趣味不可不嘗窮途之景思不可不歷

○世味濃不求忙而忙自至世味淡不偷閑而閒

自来

○綠酒但傾何妨易醉黃金既散休論復來

○不恨我不見古時人惟恨古時人不見我

○名衲談禪必執經升堂便減三分禪理

○歎見俗人推辭托病怕逢塵事。詭避逃禿。  
○欲見聖人氣象。須于自己胸中潔淨時觀之。  
○少年休笑老年顛。及到老時顛一般。只怕不到顛時  
老。老年何暇笑少年。

○昔人謂丹青乃無言之詩。詩句乃有言之畫。余則  
欲丹青似語。詩句無言。方許各臻妙境。  
○畫家之妙。皆在運筆之先。運思之際。一經點染。  
便減精神。

○世人皆醒時作濁事。欲得睡時有清身。若欲睡時得  
清身。須于醒時有清思。

○掃石月盈帚。憑泉花滿師。

○修竹到門雲裏寺。流泉入袖水中人。

○情因年少酒因境。

○我輩腹中之劍。亦何可少。要不必用耳。

○貪士之交貴人也。傲骨當存。

○君子于人。當于有過中求無過。不當于無過中求有過。



○人生莫如閒。大閒反生惡業。人生莫如清。太清却類俗垢。

○隔屋聞階上。釵聲而不動念者。此人不癡則慧。我幸在不癡不慧中。

○世上有一種癡人。所食閒茶冷飯。何名高致。

○法飲宜舒。放飲宜雅。病飲宜少。愁飲宜碎。春飲宜郊。夏飲宜洞。秋飲宜舟。冬飲宜室。夜飲宜月。○凡事不盡處。意味偏長。

○能為世必不可少之人。能為人必不可及之事。則庶幾此生不空。

○孔方兄有絕交書。今日盟交安在。

○休委罪于氣化。一切責之人事。休過望于世間。一切求之我身。

○拙之一字。免了千罪。

○苦艱惱世上。意氣須溫。嗔怒場中。肝膽欲冷。

○博說廣識見，寡交少是非。

○智為不共命斷，不共法開，不共理開，不共勢開。

○古之君子，無友則友松竹，居無友則友雲山，余無友則友古之友松竹友雲山者。

○觀山水亦如讀云，隨其見趣高下。

○春光濃似酒，花故醉人，夜色澄如水，月來洗俗。

○幽心人似梅花，款士心同楊柳。

○無事如有事時，提防可以稱意外之憂，有事如無

事，鎮定可以銷向中之危。

○有面前之容易，無背後之毀難，有乍交之歡易，無久處之歡難。

○榮時（龍信邊）辱等待，不必揚，困窮皆後福，跟隨，何須戚。

○少言語以當貴，多若述以當富，載詩名以當車，咀英華以當肉。

○死后聲名在，宜於墓中之骸骨。

○當事最當熟思緩處。熟思則得其情。緩處則得其直。

○輕財足以聚人。律已足以服人。量寬足以得人。身先足以率人。

○士大夫損德處。多由立名心太急。

○萍花香裡。風清。或度漁歌。楊柳影中。月冷。教聲牛笛。

○山居勝于城市。蓋有八德。不責苛禮。不見生客。

不混酒肉。不競田產。不覺炎涼。不削曲直。不徵文。不。不談士籍。

○吾之一身。常有少不同壯。壯不同老。吾之身後。焉有子能肖父。孫能肖祖。如此期必盡。屬妄想。所可畫者。惟留好樣與子孫而已。

○于琴得道。棧于棋得兵。棧于卦得神。棧于藥得仙。棧。

○杖底唯雲。囊中唯月。不方潤市之談。石罅花。

書池塘洗墨。豈供山澤之稅。

○能于熱地思冷。則一世不受淒涼。能于淡處求濃。則終身不落枯朽。

○相美人如相花。貴清艷而有若遠若近之思。看富人如看竹。貴瀟灑而有不疎不密之致。

○入山採藥。臨水捕魚。綠樹陰中鳥道。掃石彈琴。捲簾看鶴。白雲深處人家。

○重友者交時極難。看得難。以故轉重。輕友者交

時極易。看得易。以故轉輕。

○性不可縱。怒不可留。語不可激。飲不可過。

○凡事韜晦。不獨益己。抑且益人。凡事表暴。不獨損人。抑且損己。

○芳樹不用買。韶光分與可支。

○孤島巖然大瀛外。四垠積石望還空。青天低處乾坤盡。白日沈西北。窮。躡海雲。腥鞋鞞。而蟹鄉。月黑任那風。此生不慣荒陬景。綠草坐只驚。

涛勢雄

助高航海  
到估渡

○路過朝鮮停獲孫，空陶為活剝成村，可憐填  
得扶桑土，走出當年高麗金。山陽舊  
摩泊

○一擲千金渾是膽，家徒四壁不知貧。

○鯨魚來極原之海，鯨大海淺鯨常餒，蹄涔輒對四當  
悔，橫海之志何所施，撼山長鬚亂徒磊，硯山人傷之為哉  
詩，鯨兮，慎勿臨禍械，世路崎嶇不可近，溟撲古風  
今比自違，吁嗟麟人之族，何荼毒，短鋏長鑄尾，汝窺

獨有南溟德崖宅，一帶拔山 equal 如圍，好潛北間莫

難出，待我騎汝朝紫微。溪勢多鯨  
魚來

○秋空那處不雄飛，食有霜禽棲有枝，何事差門謀一  
飽，託身三尺碧條絲。山易  
畫寫

○鼓鼙聲沈死鐵沈沙，往：漁人網戟牙，軍壘今為狐  
兔窟，僧居曾是帝王家，骷髏有眼何能識，草木  
無情也自花，欲把一杯聊酌汝，或行哀淚落烟霞

四星  
谷懷古



○長貧知米價、老健識山名。

○話深爐火入灰微。

○雲一縷、朝暮、潤如許。豈待玉女披衣而後  
作雨耶。冬心者 研經

○欲逃世網無多語、莫遣詩名萬口傳。初白

○寧為斗折腰、何如一瓢滿腹。王維

○忘疎眉語度、紗輕眼笑來。劉孝威

○夢中神授心有得、受未信手業已忘。東坡

○孔丘盜跖俱塵埃。

○天將強健報清貧。

○安事了不形之於言、尤妙。

○方為一事即欲人知淺之尤者。

○國可滅史不可滅。楊守陳

○廉恥事大、死生事小。葉夢鼎

○但教方寸無諸惡、狼狽書中亦立身。

○遮莫寒溪千萬折、到頭大海蹴波濤。

○嘉傑低首回乃可久 黃石公

○千戈如林血作川得地日多得天寡

○骨息肉五更睡雖不多最有味

○薑桂之性老而愈辣

○詩到無人愛安工

○惡詩皆得如詩空抱山 孟郊

○微名身後酒生前 黃任

○海內兵為日吾儕醉是年

○捱月換風且留後日春死臥酒不可過時 虞松

○車馬雖嫌僻鴛鴦不厭貧 郎子元

○哀莫哀於心死而人死次之

○山無烟雲如春無花草 鄭燮

○好花莫令人見恐有痴情似米顛

○不須更作生祠記四海蒼生口是銘

○化當甘莫如言化未世莫如書 韓文公

○沃土之民不杖 荀子

○同道者相愛，同藝者相嫉。

○人平不語，水平不流。

○路遙知馬力，日久見人心。

○忘足履之適也。莊子

○忘欲詩之適也。春子才

○花徑風雨人方惜，士至死後道益高。

○古人唱歌重唱法，今人唱歌只唱聲。白崇天

○腹有詩酒氣自華。東坡

○出門即有礙，誰謂天地寬。孟東野

○謀生待足何時足，未老得閒方是閒。

○疾行無善迹。

○事繁書慰夜，心短睡辭人。

○人無風趣官常貴，凡有琴書家必貧。

○會盡人情隨叫呼，牛喚馬只是點頭。

○錢用者更來，棧事一失不可復追。李峯

○未死一日當立一日紀綱。趙方

○半錢利路人乃席一鉤名餌吾其魚 李過

○功名角上無多地。風月壺中自一天 趙可

○人生何物是充福。能食能寢能睡足 既北

○為郎憔悴却羞郎。

○無藥可延卿相壽。有錢難買子孫賢。

○交接廣而信衰。於友爵祿厚而忠衰。於君疎

○貧家淨掃地。貧女巧梳頭。下士晚聞道。聊以拙自

修東坡

○道理如雲却多在平易處 海庵

○讓利精于取利。逃名巧於邀名。

○美人自古如名將。不許人間見白頭。

○自家一箇心。尚不能整理。更論甚 其論甚改治 其詳文由

○空齋室如通衢。取寸心如六馬。可以免過 林和

○人生於世。寧寧使人有餘思。毋以使人有餘恨。

○水到渠成瓜熟蒂落。

○聞人毀已而怒。則譽已者至矣。

○名利皆不可好，然好名者比之好利者，差勝。好名則有所不為，好利則無所不為也。鶴林玉露

○以才取人最難，小人多有才也。

○莫羞老圃秋容淡，要看黃花晚節香。

○保初節易，保晚節難。

○陳白沙詩：坐十九年，其詩云：飽歷冰霜十九冬，肝腸鐵樣對諸攻。

○道天乾坤小，人間日月光。

○誠自不妄，同馬

○聞君子議論，如啜苦茗，森森之後，甘芳溢頰。聞小人諂笑，如嚼糖水，爽美之後，寒沍凝腹。趙汝談

○人家兄弟不和，皆起於婦人。馬谿田詩曰：小牕莫聽黃鸝語，踏落荊花滿院飛。甚切當。

○事倦入手，便當思其費脫。

○寶玩物者，花之日久，賞之日少。

○宇宙不會限隔人，人自限隔宇宙。陸象山

○通宵去飲沽朝臥，此是人家百弊生。

○凡人裝成十分好，不如真色一分好。程子

○順境裏，休藏無涯罪過。閒居時，莫負了有限光陰。

○天不能家訓戶飭，賢人以誨衆人之愚。天下不能家賬戶給，富人以濟衆人之貧。非以賢私人富私一家也。程氏

○為人所不能為，是男子事。忍人所不能忍，是聖賢事。

事

○荃蕀孤植，不以隱養而歇其芳。石泉潛流，不以澗幽而改其清。人在暗室，豈以隱弱而喪其心。劉子○人之自立，當漸於心。若實見得是，當決意為之。不可因人言以前卻，而易其所守。

○英氣甚善事，渾合不露圭角最好。

○懋念如摧山，宣德如填壑。遷善當如風之過，改過當如電之決。

○俗情醜醜處，澹得下，俗情苦惱處，耐得下，俗情芳  
擾處，閒得下，俗情牽纏處，斬得下，斯為學問得力  
處。

○容得天下人，然後能教得天下人，易曰：包蒙吉。王心

○伊川先生每見人靜坐，便歎其善學，若平生忙者，  
尤為對症之藥。陳白沙

○凡人言語正到快意時，便截然能忍，默得，喜氣  
正到發揚時，便翕然能收，欽得，忿怒嗜恣，正到

沸騰時，便廓然能消，化得，此死天下之大勇者  
不能。王陽明

○逸覺是便是進，逸覺病便是藥。王上陳白沙

○不作風波于世上，自無冰炭到胸中。

○士人當使王公聞名多，而識面少，寧使王公誦其  
不來，無使王公厭其不去。李文正

○得失一時，榮辱千載。

○觀人之法，只觀含蓄，則淺深可見。薛文清

○事未莫放，事去莫追，事去莫悔。

○在古人之後，識古人之失，則易。處古人之位，為古人之事，則難。

○吾人眼底看得聖賢太高，是雲<sub>虛</sub><sub>怯</sub><sub>法</sub>，<sub>病</sub>眼底看得俗人太低，是害顛倒<sub>病</sub>，宜見得無人無我，無聖無凡，如此平等心，方是凝道之舍。

○上之凌我，則曰有順受之理；下之犯我，則曰包荒之量，以之自遣，終身無患，而心常安。

○理雖在我，且以委充去之，勢雖在我，愈以謹下持之。

○讀好書，說好話，行好事，近好人。

○盛名必有重責，大巧必有奇窮。

○向人說得伸，寫得去，解得去，謂之有才，則可。於言詞絲毫無與也。言詞之道，須於衆人中，易鶴突者，條理分明，一絲不亂，此非平日有涵養鎮靜之功，大不疑，亦能及此。<sub>羅念庵</sub>

○宇宙內事，提得起，放得下，方是大丈夫。<sub>劉師泉</sub>



○文路公處大事以義，韓魏公處大事以膽。此記文公處大事，曲盡人情。三公皆社稷臣也。朱子論本朝人物，以范文正公為第一。真西山。

○一笑不值錢，自然家國肥。張謬

○裙拖八幅湘江水，髻覆雙丫巫山一片雲。李后主

○三秋庭綠盡迎霜，惟有荷花守紅死。溫飛卿

○欲知無限傷春意，盡在停針不語時。朱絳

○舊路青山在，餘生白首歸。劉長卿

○掩笑頻歌扇，迎歌乍動弦。同上

○紗窗不肯施紅粉，回遣蕭郎問淚痕

○溶溶溪口雲，纔向溪中吐，不復歸溪中。還作溪

中雨。鮑參軍

○易求無價寶，難得有心郎。女道士

○秋風清，秋月明，落花系取逐逐散，寒鴉掠復

驚，相思相見知何日。此時此夜難為情。

○眼想心思夢裡尋，無人知我此時情。不如沈上

鴛鴦鳥，双宿双飞，过一生。

○村前村後樹，高堂有餘春。青麥路初斷，紫花田未耕。雉聲呼不到，山勢即猶橫。橫新寒春風裏，

吟酣信馬行。温宏 邵居

○有心不語暗如情，燈下裁縫月下行。行到階前知未睡，夜深波放剪刀聲。

○鴛鴦啼露冷，酒初醒。卷畫樓西曉角鳴。翠羽張中人夢覺，寶釵斜墜枕函聲。

○江南江北愁望，相思相憶空吟。鴛鴦煖臥沙浦，鴻鵠闲飛橘林。烟水歌聲隱隱，渡頭月色沈沈。含情咫尺千里，况聽家、远砧。鱼云棧

○至近至远东西，至深至浅清谿。至高至明日月，至親至疎夫妻。七道士 李冶至

○長有歸心懸馬首，可堪無寐枕琴聲。秦韜玉  
○努力少年求好官，好花須是少年看。看君老大逢花樹，未折一枝心已凋。元稹

○南樓春一望，雲水共昏昏。野店歸山路，危橋帶野村。晴烟和柳色，夜雨漲溪痕。下岸誰家住，殘陽半掩門。許渚

○心：復心心，結髮務在深。一度欲離別，千迴結不襟。結妾獨守志，結君蚤還意。始知結衣裳，不如結心腸。坐結行亦結，結盡百年月。孟郊 古結髮

○月樹有風，沙夜聲。遠山與月見，秋燈許渚。  
○半夜燈前十年事，一時隨雨到心頭。杜荀鶴

○半欲天的半未明，併沙花氣睡少覺。娃兒撥起鐘聲動，二十年前曉寺鐘。元稹

○天地氣和融，霽色池基日暖燒。春光李山甫  
○相逢紅塵內，高揖黃金鞭。萬戶垂楊裏，君家

河那邊。李白 相逢行

○勳德既已衰，文章亦後集。但見南山石，刻作路旁碑。勳名悉太公，德教皆仲尼。復以多為貴，千言直萬貨。為文彼何人，想見下葉時。但德

愚者悅，不思賢者嗤。豈獨賢者嗤，仍傳後代疑。  
古名蒼苔字，為知是醜詞。  
白居易古碑

○所居幸接隣，相見不相親。一似雲間月，何殊鏡裏人。  
丹成宜有恨，腸斷不禁春。願作梁間燕，無由爰此身。  
崔仲容 贈所思

○曉受茅簷片月低，依稀鄉國夢中迷。世間何物備人老，半是鷄聲半馬蹄。  
王九齡 題旅舍

○漢主曾聞殺畫師，畫師何足定妍嗤。宮中

多少如花也，不嫁單于君不知。  
劉獻庭 題

○玉盤盪墨可二斗，身既蘭絲冰啓蠶。紋解未揮灑，無不盡。欲上青天寫白雲。  
張蓋

○百金買駿馬，十金買美人。萬金買高爵，何處買青春。  
屈復

○小雨松迳寒，人歸夜深火。宿鳥栖未安，鷺飛落山果。  
謝芳達 宿山園

○人行大寒天，密雪迷村影。欲扣酒家扉，山橋一

簾冷 同上卷言  
迎行人

○腹其龜腸潔、聲由清露遠、何緣塵垢

裏、強若伴 金貂 王士祿

○大木百餘尋、老瓦橫洞壑、不遇樵蘇人秋

風自銷落 絕映鐘  
寫目

○綠雲當空翻、清音滿廊廡、無風雨送秋寒、中心

不言苦 為湜  
芭蕉

○獨臥繡窓靜、月明宿鳥啼、不嫌香夢夢、羨羨

江是變楊 陳燦霖  
古意

○靜坐月明中、孤吟破清冷、隔溪老鶴來、踏碎

梅花影 翁照  
梅花  
楊坐月

○鐘聲報新晴、道人期曉夜、涼風穿壑來、

吹落山頭月 汪微遠  
早  
以首蓮  
暹

○高閣臨溪水、流苔軒窗閒、不見蒼中僧、微

而潭上來 同上卷  
柳浪閣

○客来自何處、為言南山頭、昨夜片時雨、新添

春洞流 林古度 客来

○青山三十里，日上 楊 烟柳碧，山北行 垂也水，残梅开。

○不愁欲别难，但愁

颜色好 戴移春 石城梁 易老，不愿心神仙，但愿

○绝壑下危流，明澈木端出，溪路寂无人，潺湲

落日 朱舜号 无壑

○鸟鸣山月落，朱舜号 村静松风缓，法鼓响空林。

已有山僧饭 同上 暨溪

○踏雪访山樵，山樵踏雪去，一路草鞋痕，寻

入松深处 赵夙 晓

○桃花水涨江鱼肥，渔子维舟趁钓矶，得钱沽酒白

日研，不知变将米生苔衣 欣光敏 金陵懷古

○野曠渾連水，人間屢出遊，金陵懷古 暗蛩鳴夕露，涼蛤

上沙洲，池靜蓮房落，金陵懷古 因深柳葉秋，兒童不相

問，爭弄倚灘舟 同上 漫興

○寒色孤村暮，悲風四野凋。溪深難受雪，山凍不流  
雲。鷗鷺為充雜，汀沙望莫分。野橋梅或樹，併是  
白紛。洪昇

○終見凝粧映水紅，旋驚殘葉颭西風。池塘一切榮  
枯事，盡在沙鷗冷眼中。畢永仁

○茶心松風先破睡，墨添山氣待微醺。程嘉燾

○漁夫晚唱煙生浦，素婦庭暄月滿筐。

○最憐帆遠浮天闊，始信江空得月多。

○野渡夕維舟，寒潮正急流。一聲沙際月，帆影第  
幾秋。獨客難為夜，孤心易感秋。百年同逝水，不盡古今愁。

沈道映  
夜泊

○美道吳興事，酸風刺骨寒。相知皆死別，無處問平  
安。故鬼千家哭，孤城百戰難。當時衣上血，今日與誰看。

戴移孝答人述  
先君四事

○木葉欲微脫，相看惜故枝。一秋今古夢，萬樹別離  
思。入水飄無定，隨風下每遲。始知天地意，搖落總

無私 陳玉璫  
卷葉

○深松寒白石，僻路到人稀。仰見高峯頂，孤僧採藥歸。雲多從杖起，鳥不上山飛。落葉一聲聲，猿公來歎扉。  
汪微遠 天平石  
八師子來

○一聲冷雲白，山家何處尋。忽逢采樵者，遙指梅花林。曲徑吠寒犬，短籬鳴野禽。柴門閉幽寂，獨立聽泉音。  
陳炳 尋馬山  
人不馬

○秋階百蟲絕，何處起寒砧。中有空閨歎，重多暮節

心。西風獨吹遠，涼露滴方深。一片淒清外，如沙故回

音 王格  
秋砧

○結廬何日住深山，竹月松風相對閒。却笑溪聲忙  
度身，奔流偏欲到人間。  
趙命  
溪聲

○短籬矮屋板橋西，十畝桑陰接稻畦。滿眼兒孫滿  
笻日，飯香時節午雞啼。  
江澤 田家樂

○瑞溪誰到紫雲腴，萬古文心向北樞。小點墨池成  
巨浪，就中飛出北溟魚。  
顧陳壻



○年少悲歌客，秋原落日情。快逢燕大侠，羞学鲁诸生。问世都难会，论文每不平。懷中三尺鐵，風雨

夕常鳴。

李天馥 俠客

○少不離鄉縣，何堪老大歸。出門童子問，見面故人稀。道路忘南北，溪橋半是非。方知山色在，猶到舊柴

扉。

孫明 蓬家

○誰將清淚洒幽墀，散作瑤華別有姿。最是玉人腸斷後，淡粧無語背人時。

九怡 白秋海棠

○駿馬能歷險，力田不如牛。坐車能載重，渡河不如舟。舍長以就短，智者難為謀。生材貴適用，慎勿

多苛求。

顧嗣協 龍興

○東湖有漁父，艇倚清溪濶。垂竿秋雨中，櫂歌夕陽外。九月葦花白，西風雞犬大。釣亦未必得，得亦未必賣。扣之默無言，鼓枻悠然邁。

邵長蘅 漁父

○明月在濁流，不改月色清。孤松盤曲徑，不改松性貞。君子遇陰蟻，此心恒為平。

陸文路 擬古

○秋江渺：無津涯，江上漁父船為家。性泛何知路遠近，  
一規明月依蒼瓦。清晨奉網西風裏，網得長魚滿  
船喜。兒能炊火婦烹鮮，鄰叟還貽新醞美。陸魯  
望張志和朝：待思在烟波吾甚不解工吟咏，醉  
唱羲皇經畧歌。張廷玉  
題漁父圖

○童兒長成何所求，農家職守惟牧牛。春風著物  
百草長，驅牛隨草來沙洲。童知牛性不擇草，  
過午草盡俱堪留。乘閒嬉弄三孔笛，綠楊影裏

聲悠悠。天上日車休轉轉，少待吾牛飽其腹。牛得  
飽，今安我吾心。牛不飽，今愧吾牧。不施鞭朴，牛則擾  
順。牛之性無械巧，牛蹄行于牛尾搖。背上問之春  
馬，馬下段施任所之。牛日肥，今牛不知。嗚呼司牧  
盡如此，人間那受飢寒死。王恕  
牧牛詞

○竹身斜覆半潭烟，老衲眠多不語禪。欲識暑消  
無事意，厨中破竹引山泉。王岱  
青蓮庵

○狼藉烟雲臥筆端，枯枝老葉倦高寒。天真到處

無人識，抱向空山獨自看。吳之振 墨叶

○白雲縫二青山去，雲自忙時山自閒。唯有野人忙不

與，相二洗硯寫雲山。陸韜 白雲

○平分花事是今晨，半入深春半早春。楊柳不堪花

燕子，淡黃愁殺翠橋人。許世春 二月半

○桃花點二荻抽芽去，野行吟到日斜。一夜東風

吹雨過，滿江新水長魚鱖。祁文友 去聲

○天地不生成，古今有何事。茫茫萬劫中，生民多所味。黃

全變為土，盜跖亦季柳。造物起爭端，無怪人趨利。有酒

且斟酌，常事付一醉。陸文韶 雜詩

○貧自儒家事，難安為老親。遙憐負米客，長作依閭

人。夜績孤燈暗，朝梳白髮新。生男亦何益，只是

累艱辛。沈受宏 憶母

○看松長恨買山遲

○山河非國寶的主，愛忠臣

○水木湛清華

○金中生塵

○讀書隨處淨土

○直士以正躬

○三公不換此江山

○兩岸柳汀烟塢

○水落石出烈士骨格

○巧者拙之奴

○竹吟石默

○雕琢自是文人病，才陰尤傷風骨多。君看  
大羹玄酒味，蟹螯蛤柱豈同科。陸放翁

○茶、茶、雲液、露芽、醒酒客、喚詩家、葦葉不  
問、羊酪誰誇、甌瓦汲、水、杯分甕、花、陣  
松風、夜月、三聲、壘鼓、朝霞、澆、盡、胸、塵、何  
所憶、竟陵城下寄生涯。一字至七字詩  
元稹

○茶、茶、香葉、嫩芽、暮待客、爰僧家、碾離白  
玉、羅織紅紗、鉞、剪、黃、葉、色、梳、轉、麴、塵、花

夜後數陪明月，晨前命對朝霞。洗盡古今  
人不倦，將知碎後豈堪誇。同上

○輕舟一路繞烟霞，更愛山前滿澗花。不為尋君  
也留住，那知花裡是君家。宋詩

○國士無雙秦小游，堂之坡老醉黃州。其其至  
或瘦，文章早，在果是江河萬古流。同上

○野水參差漲痕，疎林款側出霜根。扁舟  
一棹，歸何處，家在江南黃葉村。同上

○風江潮動月茫茫，懊惱聲中夜未央。南北  
東西盡蓮葉，不知魚戲在何方。同上

○江干多是釣人家，柳陌菱塘一帶疎。好是  
日斜風定後，半江紅樹賣鱸魚。同上

○淺深春色幾枝含，翠影紅香半欲酣。為水  
輕陰人未起，賣花聲裡夢江南。同上

○曉買茅擔片月低，依稀鄉國夢中迷。世間何  
物催人老，半是鷄聲半馬蹄。同上

○寒雨蕭蕭夜打蓬蓬空相對一燈紅十年無限  
存亡事感并入空江話雨中同上

○獨凭危堞望蒼梧落日君山似畫圖無數柳  
花飛滿岸晚風吹過洞庭湖

○向來松檜欣無恙座久復聞南涧鐘隱々脩  
廊人語絕四山滴瀝雪鳴風

○洛陽相識盡名流駉馬追勝下馬遊乘興東  
西無不到但逢青眼即淹留

○三起三眠爾始成沸湯投入寐無聲可博力  
救人間冷嘔盡心肝便就煮

○野性生來不耐間人之祝我壽如山共為山也寧  
為水好去肉流字雨間

○舉世皆宗李杜詩不知李杜更宗誰能探風雅每  
窮意始是乾坤絕妙詞

○木石風花結四隣寂寥門巷久無人昔年燕子  
今重到始信文坊再獨真

○莫恨磯多行路難、但教目悅即心安、荆溪已過  
倪黃到、日下天公送畫看。

○天明始覺滿身霜、日出纔伸十指僵、山色半青  
還半霧、馬頭紅葉是何莊。

○竹根吠犬隔溪西、湖雁聲高木葉飛、近聽始知  
雙櫓響、一燈浮水夜船歸。

○萬物之母為地、其乾く、南つてや、天の甘露  
を飲み、渴りて草木、其の恵みの露を其のふ、又量

此ありん、まのあゝ、こゝへ大海の飲料も、太  
陽紅を在、天に流る、昇つ時、大海の雲霧深  
き涙を飲み、月も亦天の光輝のま、白き流るを  
飲み、さく、人々真面目の心を以て思ふ、そよ  
自死の神聖なる法則、冥に飲むこと、存也  
我の自死法を我規則とせん、我の宇宙を  
こ、此を祝賀せん、ア、ナ、ク、レ、ラ、ン

○強力の者、我師、突進せよ、花咲く葡萄園よ

我只此の血涙を流すのみならず、かの溢る、杯を  
よ、只此の血涙を流すのみならず、かの溢る、杯を  
思ひ、戦場、戦死、さうも、酒、あ、於て、飲、死、  
心、地、さ、と、同上

○吾人、若し、黄金を、蓄積、せ、心、一寸、さ、う、と、七、生命、を、延  
べ、得、る、か、若し、黄金、し、一、時、さ、う、と、死、の、手、さ、う、呼  
吸、を、買、ひ、得、る、か、我、人、實、に、此、貴、重、なる、鐘  
物を、積、み、上げ、一、相、運、命、其、使、者、と、さ、う、と、我、を

一、と、若、影、さ、う、い、め、ん、と、さ、う、時、へ、此、れ、此、鐘、物、を、死  
生命、の、或、時、口、を、得、ひ、得、て、又、其、使、者、と、贈、賂、し、て、  
彼、を、一、と、并、び、地、獄、に、墮、る、し、め、ん、我、人、金、銭、此  
能、力、を、看、せ、と、さ、う、我、人、命、を、無、り、し、死、を、思、ひ  
ん、又、生命、の、口、の、不、定、何、を、能、し、め、ん、金、之、直、毫、ん  
墓、の、中、表、を、照、ら、す、と、さ、う、我、何、を、金、銭、を、求  
め、ん、只、未、だ、所、の、酒、席、さ、う、あ、ら、う、と、う、朋、友、を  
合、し、と、出、さ、う、と、さ、う、同上



○今や涙ハ何處にハある、嘆息何處にハある、  
風ニ吹かんと飛び去らう、風ニ吹かんと飛び去  
らう、誰カ我往く道を知る者カ、否々世路ハ  
晴し、只酒のみハ能く之を照らすん、然らば我ハ  
泡立つ酒を飲み、次て人生の道を祈り往かん  
全上

○我等ハ決して死に合ふことあり、何とせんハ我生け  
る間ハ無論死来りず、死来る時ハ我ハ既に在らざる

エピソード

○今日我ハ急ぎて杯を傾げん、死を明日の事とせん、如  
く明日とせんば、何カあるん、我ハ再び飲まざる  
ナクレラン

○我ハ墓中より歌え、人ハ飲め、時尚ハ荒れん、  
死酒を我如く寒冷なるらしめざるの前ニ、飲め

○我ハ琴ハハ勇ましく曲に細考くことを好まず  
して曰く、我輩ハ只恋にのみ細考くべしと又曰

無情

乙女

せらばよ、敵は名譽の大將さへは、戦事呐喊  
の御者よさらば、我々は他の優りさるにや御者  
かん、口へ愛の文はホレ、名譽の夢よいせさら  
ばと アナクレラン

○我はキユピットと戦へ、彼の全<sup>失</sup>を放つる者ん  
を傷くこと能はざらん、我は心とを伺ふ  
我心、嗚呼死す、知くする内、愛の心、我心、坐  
を母占の岳さ、我楯よ、我ぬに暇を告げん何

不忠を、嗚呼母を益する、が外部を勉むるこ  
と、我敵の外はあらずと内はあらず、曰上

○嗚呼快楽の子なる女子よ、天の海に美を興へ、  
眼の光を興へ、眼の失、戦事、矢を敵す  
るの力なく、美の火、敵の矢、敵の矢、敵す  
はるへし、女子よ美しかん、我れ海を獲めん、  
微笑せよ、世の海の前、弱かざし、曰上  
○愛と美の束縛よ、危し之れ束縛と云ふその

敵

敵

るんま、誰か自由を願ふべき、全上  
○アナクレオンの墓に左の銘刻せる曰く、旅の人  
よ、此處にこゝ来ることあるにハ、斬りて眼を  
之に注ぎ、家へ帰らば我のテオスの麗人、ミユ  
アの山を飾りたる、最も優りし、為人の像をえ  
りと云へ、

○大其心容天下之物、虚其心受天下之善、平其心  
論天下之事、潜其心觀天下之理、定其心應天下之

爰 呂新吾

○坐間皆談笑而我色莊、坐間皆悲感而我色怡、  
此之謂乖戾、實已處人而失之、全上

○吾人終日最不可憊、蕩々作空軀殼、全上

○工夫全在冷清時、力量全在濃艷時、全上

○君子知其可知、不知其可知、不知其可知、則愚  
知其不可、則斃、全上

○繞下手、便想到究竟處、全上

○見前面之千里，不若見背後之一寸 全上

○慮人處已處事，都要有餘，無餘便無救性，此衷甚難言。 全上

○神清人無忽語，機活人無癡事。 全上

○人皆知少之為憂，而不知多之為憂也。惟知者 全上

○不怕在朝市無泉石心，只怕歸泉石時動朝市心。 全上

○美生愛，愛生狎，狎生玩，玩生驕，驕生悍，悍生死。 全上

○不怕多感，只怕愛感。世之逐之感之，比白愛感者也。 全上

○入釘惟恐其不堅，拔釘惟恐其不出，下鎖惟恐其不嚴，開鎖惟恐其不易。 全上

○家々有路到長安，莫辨東西與南北。 全上

○駒駟驚隣而睡者不聞，垢污滿背而負者不

見全上

○撻人者撻也。而受撻者不怨撻。殺人者刃也。而受殺者不怨刃。全上

○以在兒。易一跛子。子之父母不從。非不辨美惡也。各有所愛也。全上

○剛明世之碍也。剛而婉。明而晦。免禍也夫。全上

○多門之室生風。多口之人生禍。全上

○終極其始。極其亨。極其全上

○六合是個情世界。萬物生於情。死於情。至無情。聖人論情。君子制情。又縱情。全上

○衣錦志綢。自是學者作用。聖人無尚。全上

○各自責。則天清地寧。各相責。則天翻地覆。

○世有十態。君子免為。無武人之態。粗豪無婦

人之態。柔懦無兒女之態。嬌稚無市井之態。貪鄙

無俗子之態。庸陋無才子之態。儂佻無冷優之

態。滑約無閻閻之態。村野無堂下人之態。迫

無婢子之態 早諳 無偵謀之態 詭聞 無高賈之態 銜售(全上)

○氣質之病小 心術之病大全上

○氣忌盛 心忌滿 才忌露全上

○人不難於違衆 而難於違己 能違己矣 違衆何難全上

○君子之出言也 如木石之用 賤其見義也 如貪夫之趨利全上

○輕信驟發 聽言之大戒也全上

○山林處士 常養一個傲慢 軒人之象 常積一腹痛憤不平之氣 此是大病痛全上

○水能實靈 火能虛實全上

○聖人之道不奇 德奇便是賢者全上

○聖人之私公 衆人之公私全上

○儘聰明底 是儘昏愚 儘木訥底 是儘智慧全上

○孔子只是一箇通、通外更無孔子 全上

○平生無一事可瞞人、此是大快樂 全上

○言者大病痛、只是器度小 全上

○菴蓋云

喪て振る者、悲をあるじとし

酒をのむ者、閑をあるじとし

愁に任する者、愁をあるじとし

徒然に任する者、徒然をあるじとし

○長嘯子曰、客は半日の閑を得んば、主は半日の閑を失ふ

○江山有巴蜀、棟宇自齊梁、老杜兜率寺詩

○昔はつらくさし分けし腰厚、今まあうさう

ルに折か、めと力、唐衣格海

○ふたつとある只の親父とさうひと、ふたつの結とさう

酒のいんじの全上

○まゆもあたまもさう、こゝろやめのあはれひし

こもるる目いさきけり ホトキキ文

○まるといへん講のたゝらどししれろう那る

こそ姫しころなれ 同上

○くかまもすささてよを思ひし一画の心のま  
らむらうせと 同上

○数くのなまふ人志れあむしくいわさかの  
阿まをあやしころけり

○雪撥や我つきりの人こい詠 紀述

○名月や舟の志とく丸せ舞 浦山

○鐵のそこ城の弦をわけんが如くま心を張三七

奉公と勤まし是即坐程 鈴木正三  
石平道人

○冬ハまら夏がしうぢやと云ひのけり 鬼貫

○柳の花ももろけり花は花なり花はひあひ

風に随ひせしかも音なき夏はまなうしん体か

人を露ひ秋のこ葉のたゞ流るる風に坐あは

ハくぐんにおやちく雪にまらぬ深 鬼貫



○朔夜がよも外は振りはらるる、うつぶ  
きや涙の雨路かたさ 秋山陽

○今い思ひのまじはるる、昔に句お花の袖、  
誰とあそぶん 折丈も、ちやんと揃ひし若衆に  
お安の衣をばお初、春のるるけのたひ  
昆布、縁と月のをゆるおほこには、姫か  
らうちやあさういか、春の袖 中崎操院

○此まやあの花踏み教とす此をいなるん

此もんあすなふ、あはばど、残が目も今  
いかに、ましき人と夢ん、んんをぬわいる 打起  
見 秋山玉山

○にくかまぬとら、いと詫しきん、いとら  
なふ、あす、道、月、あ、の、いけ、の、秋、の、あ、山  
は、と、い、ま、あ、の、一、お、夢、は、あ、う、ま、手、杖、の、し  
れ、ぎ、に、鏡、の、移、り、を、長、を、思、柳、里、茶

○空とあのをき秋のねの、月か隠れ入るん

か雲が月をば隠すの女、こ分れくを逢ふを宿  
乃むにお前こものそるやうに、そむ皆月こもいそむ寝る  
す、枕はかりかかわい、か、月の枕こも全上

○よき定ぬ舟るんや、いつくとそらと白波  
のうづ、に色くる身の程ん、つけと香こもき女王  
の風のつるん思ひ寝の、枕の花にかをんを  
夢はほかるき、その秋の、あけて垣こも穂の如  
の花も、あやめおの女五月間、花楊こものふとあり

昔思ふの摺衣、袖まぬぬをほ、かぬふ、棹の  
霞も涙にも、玉の結あけて、款又つる、契りし  
人はあまにのま、た世にかるる、敷いかは、よ、や  
吉野の、よう、や吉野の花も、雨も、雲も波も、  
あふん世に、あはば、や、棹の宿、日上

○たのまんのぬ物といふ、いと我心、ゆに寝る女、  
世も、さきほ、ん、馴れ、花も、よ、そ、に、も、せ、ま、  
身し、も、せい、た、き、そ、は、ぬ、も、鴨、の、か、ぬ、さ、い

氣をめぐると、ゆわりのをり見えろく、肌には  
づかしきの波、花ごころ七中時珍

○三武滅佛、終不滅、一韓摧佛、終不摧

○如人每打見、多在相門前

○優孟得時皆貴客、英雄見慣亦常人

○無意懐人偏入夢、未報恩門羞再入

○高きとるすん丘陵、倚る

